PDF

東戸の自然シリーズ 21

大甲山はどうしてできた







鍋蓋山頂手前の山道

このあたりの道には円い礫が転っていたり、顔を出したりしている。





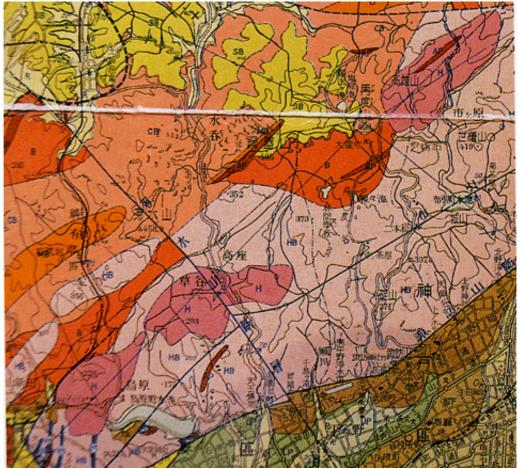
アカマツ林の中にポツンと三角点(486.5m)がある。ここがまわりの土がなくなり三角点の標石 鍋蓋山の頂上である。 がむき出しになっている。



礫は高圧線の真下あたりからみつかる。



鍋蓋山頂は木立のなかにある。



鍋蓋山の尾根筋に神戸層群が分布するのは、昭和13年に作られた上治寅次郎博士の「六 甲山塊地質図」に記入されている。図中の黄緑色のSBの部分がそれである。(上治寅 次郎、1937)



デジタル化 神戸の自然シリーズ 21 六甲山はどうしてできたか メニュー・